



門 1284
番 1387
号



振陽群談巻第三

後志編集

○山ノ部

水無瀬山 嶋上郡廣瀬村ニアリ

續十 水無瀬山夕霧くさのり高きや霧くさのり山

四秋 飛鳥の山本は霧くさのり高きや霧くさのり山

史本 霧くさのり山本は霧くさのり高きや霧くさのり山

春四 霧くさのり山本は霧くさのり高きや霧くさのり山

墨川より流れ残る水無瀬山

原山 同郡原村ニアリ 藻鹽振津ト云ク

原山 原山の山は霧くさのり高きや霧くさのり山

姓氏録 云、振津、同、諸著原、首、真、神、宿、禰、同、祖

後志編集

續テ行程三里ニ及リ土俗千里山下稱レ
テ九十九谷アリ今一谷ヲ闕テ不足百足
ナハ虎卧野邊ト成ナト樵夫ノ所謂ナリ
根津國熊野田千里山下岫山集ニ書リ因
テ豊島郡ニ属ス縱ハ四郡卧ル依夜中山
ニ准ハ麻山トスルモノ歟今世山ノ姿以
為平均也夫本集根津國云々

五月山 同郡池田村ニアリ彌生山五月山
ハ春夏ノ山ノ氣也ヲ讀ル耳ト云氏夫本
集根津國ニ属シテ歌ノ名所ニ比ス

夫妻 五月山知乃也月夜子親さけむわはるさか人々

箕面山 同郡平尾村ニアリ箕面寺境内也

依伯山 川邊郡猪名寺村ニアリ

猪名縣依伯部獻苞首云々 同卷第十五

仁賢天皇五年春二月丁亥朔辛卯昔求國
郡散亡依伯部以依伯部仲子之後為依伯
部造云々 同卷第七一崇峻天皇二年畧

長門縣史記卷第三

佐伯連丹經手云 同卷第北六齋明天

皇二年 佐伯部連栲繩云

有馬山 有馬郡湯山村ノ山中丸九テ歌名所

トシテ有馬山ノ号アリ亦有間ト書リ

後拾 有るいふの香原風おけし出とふをまればやう

鞏 有る馬のまをいふも有るふ多事其病のいふ

玉八 ともいふやうにやうに馬のたふはさるの雨

新 有る武彦の奥の有るふをいふはさる

大場山 同郡同所ニアリ夫木集紀州或ハ

大場山 同郡同所ニアリ夫木集紀州或ハ

振津ニ比ス名寄振津云

名寄 振名の山をいふ香原に大場ノ子風をいふ

猪名山 同郡有馬山ノ一名或ハ猪名端山

猪名山 猪名中山ト讀リ

五土 志の馬の山をいふ水はのり

味 有る馬の山をいふは

日秋 馬の山をいふは

日冬 有る馬の山をいふは

羽東山 同郡香下村ニアリ一説能勢郡ニ

属スト云此證不詳也所故達天皇聖代ヨ

馬場詳談卷第三

山相重ルノ形容ヲ以テ茶磨山ト云リ
 岡山 同郡岡村ニアリ慶長元和ノ古戰場
 静謐ノ地ヲ祝シテ世ニ御勝山ト稱ス岡
 山ノ名ハ地名ニ因リ茶臼山モ御勝山也
 波除山 西成郡九条村ノ西安治川ノ末ニ
 アリ貞享年中依テ公命令掘安治川淀川
 ノ流ヲ直ニス其塊ヲ以テ築ヒ西海ノ波
 濤ヲ凌シム因テ波除山ノ名アリ世俗瑞
 賢山ト稱ス
 帝仕山 鴻上郡郡家村ニアリ山ノ半腹ニ
 題スルノ形容アリ因テ帝仕ト号ス

阿威山 鳥下郡阿威村ニアリ太織冠録
 公ノ古墳也士俗將軍山ト稱ス所傳引書
 等塚ノ部ニ記セリ
 行基山 同郡佐井寺村山田寺境内ニアリ
 行基僧正眺望ノ所也因テ山号ト成リ
 鹽満山 豊嶋郡池田村ニアリ所傳云昔此
 山頭ニ池アリ潮水満干アツテ猶青海ノ
 如シ因テ鹽満山ト号ス今略シテ鹽見山
 ト稱ス池田城主山頭ヲ闕テ菩提寺シ州
 創ス北ノ時池水ヲ埋ミ其舊地ヲ措テ鹽
 増山ト号テ今大廣禪寺ノ山号ニ取リ

茶臼山 同郡日所ニアリ所傳不詳山ノ形

容ニ因リ

愛岩山 同郡日所ニアリ此山歌名所ニ出

ル五月山也ト云リ其部ニ論ク山頭ニ愛

岩權現ノ社アリ毎年七月廿四夜種々ノ

燈籠ニ火ヲ熒テ愛岩火ト号祭ル大坂北

ノ町終ヨリ見ル人星光ヲ疑フ

寺尾山 同郡伏尾村ノ邊ニアリ所傳云昔

此所依為伽藍地寺尾山ト稱ス僧坊民屋

都テ千戸ニ及リ是ヲ以テ今ノ俗寺尾千

軒ト云傳リ

八幡山 同郡日所久安寺山内ニアリ往昔

應神帝影向ノ山頭ヲ以テ八幡尾ト稱ス

正覺山 同郡日所ニアリ菅神影向ノ地山

内ニ社アツテ其部ニ分ツ一名基原山ト

モ云リ

待難山 同郡玉坂村ノ東歌名所待難山ノ

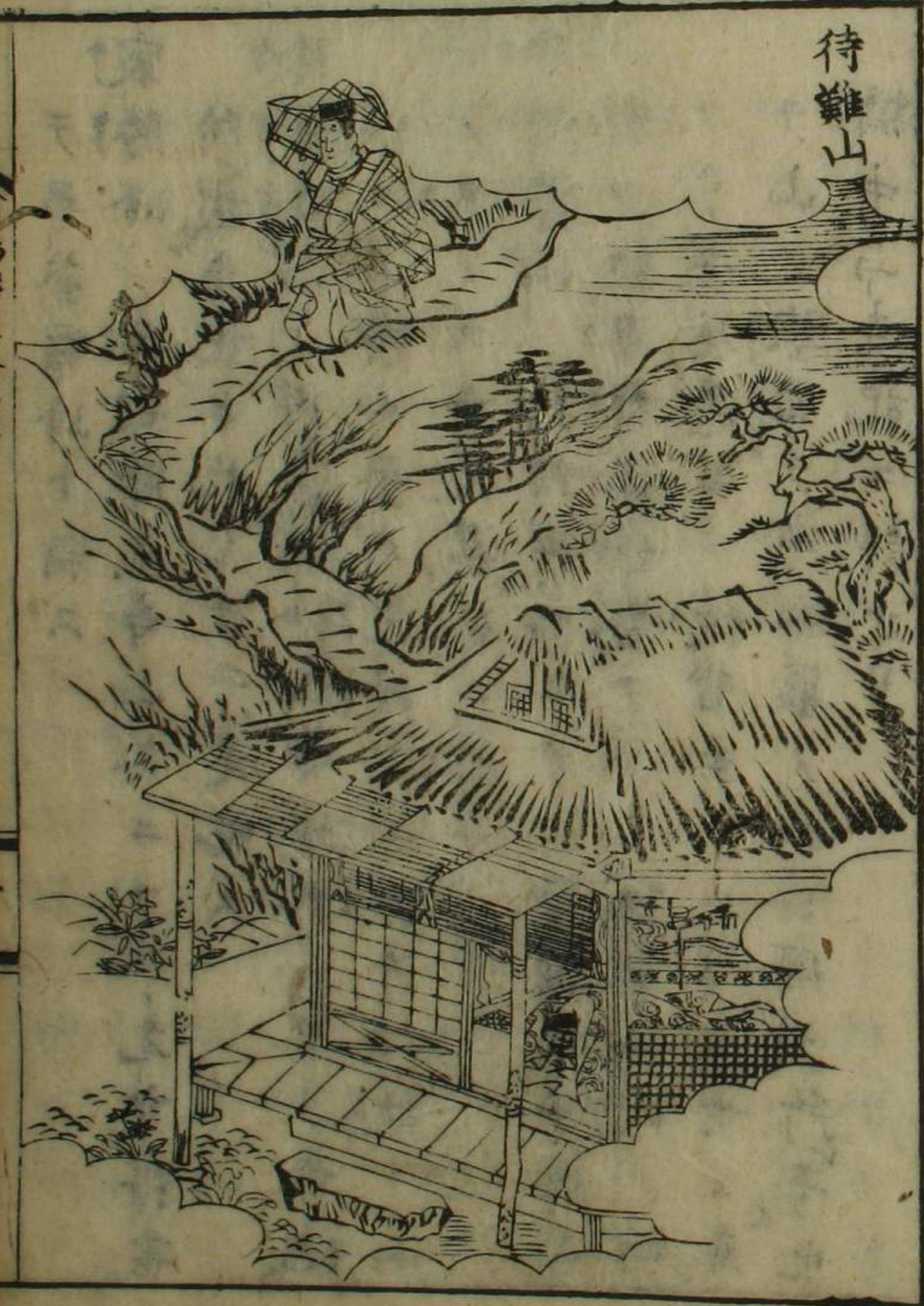
續ニアリ所傳云昔ハ無名ノ山也永相ノ

頃或人世ヲ遊テ此山ニ入り其形容世ニ

勝テ在五中将ニトシ或月玉坂ノ脚ニ

下ル此山ノ何某獨ノ娘アリ憲暮シテ程

ナク睦シキ中ト十ニ夜毎ニ山ヨリ歸ニ



待難山

通^{カミ}フ^ニ或^ハ夜^ノ待^ミ宵^ノ時^{トキ}移^リ明^ク方^ダ近^ク音^{ソト}信^ジケ
 シ^ハ彼^ノ女^ノ舌^ノモ^ナク^ク待^ミ暮^テ現^レニ^見ヘ^シ面^モ
 影^{カゲ}ノ^夢モ^難面^ノ山^ノ風^ノ音^ト讀^{ヨミ}ル^歌ニ^猶モ
 互^{ガヒ}ノ^思深^ク人^ノ目^ノ關^セモ^不耻^ズ成^リ行^キテ^世ノ
 人^ノ論^ガト^成ヌ^二人^トモ^世シ^恨テ^終ニ^禁
 ノ^川ニ^身シ^沉テ^名ノ^三山^ノ川^ニ殘^セリ
 佛^ノ念^山 同^郡熊^野田^村ニ^アリ^所傳^不詳^ラ
 鼻^テ茶^羅峰^ト 同^郡萱^野村^ニア^リ大^宮寺^記云^ク
 同^基聖^尊師^當山^ニ登^ツテ^眺望^スル^ニ索
 西^ノ山^嶺異^雲ア^ツテ^鼻茶^羅華^ノ如^レ其^ノ
 兩^峯ノ^街ヲ^開テ^寺院^シ州^創也^シ園^テ以^テ

テ鼻茶羅峰ト稱ス

寂勝峰 同郡勝尾寺山内ニアリ、元亨釋書

所載寺記ニ比シテ于是略ス

除業障山 川邊郡仲山寺境内ニアリ寺記

云、此山頭ニ登ハ業障ヲ除滅スル故ニ山

ノ号トス寺院其部ニ然リ

卒都婆山 同所院内ニアリ聖徳太子佛舎

利ヲ納卒都婆供養アツテ障魔降伏ノ祈

アリ守屋連等ノ徒皆生天セリ末世ニ至

テ山ノ姿自ラ卒都婆ノ如シ因テ所号也

猶中山寺記ニ詳ナリ

舎羅林山 同郡東多田村ニアリ所傳云昔

此所大伽藍ノ靈區ニテキ卒都婆院ヲ表ス

因テ舎羅林ノ号アリ

鷹尾山 同郡多田院ニアリ寺院山号ニ取

リ寺記其部ニアリ

箕指山 同郡日所ニアリ源満仲公御旗シ

齋スノ所也ト所傳セリ

駒塚山 同郡波豆川村ニアリ源満仲公龍

女ヨリ所與之駒斃テ于是埋テ駒塚山ト

号ス文明年中毎夜山頭ニ放光村民懼之

不得出戸昔明寺ノ僧塚ヲ掘テ駒ノ頭シ

設云金堂ニ鎮祭ル猶寺記ニ詳也

三州山 能勢郡神山村ニアリ所傳云推古

天皇ノ御宇日羅山頭ニ登テ老翁三州

ヲ興ルニ遇リ因テ山号ト成リ猶清山寺

略記ニ詳也

鷹岡山 同郡木代村ニアリ一名竜王寺山

仁云リ昔山頭ニ寺院アルニ因リ哉毎年

七月廿四日愛宕火ト稱シテ此山上ニ火

燃ス兩ノ祈ル松樹アリ雜類ニ比ス

天台山 同郡川尻村ニアリ山頭ニ松法大

師加持ノ名石アリ雜類ニ比セリ藤ノ清

水井水ノ部ニ記之當山ノ景色亦無比西

海目前ニアリ

鷹取山 同郡山邊村古城ノ地名ニアリ鷹

ノ築造ヲ以テ名トスル歟所傳不詳古城

其部ニアリ

月峰 同郡大里村ニアリ此山頭ニ寺院ア

リ直ニ月峰寺ト稱ス聖德太子百濟國ノ

僧日羅州創ノ所也山上ニ槐ノ靈木アリ

因テ槐峰ト稱シ亦其木光明アルニ因リ

妙見山 同郡野間地黄ノ兩村ニアリ

香下山 有馬郡香下村ニアリ此山歌各所

羽束山ノ字也香下地名ニ因リ或ハ麻舌
ニ作ル山頭ニ觀音靈場アリ羽束山香下
寺ト稱ス寺記猶詳ナリ 羅山文集有間
山温湯記云

麻舌山眺望

此処峰園又谷回

登高猶嘉眼新闕

就中一眺得奇絶

兩箇神山翠作堆

有馬富士山 同郡尼寺村ニアリ山ノ姿富

士ニ同シ有馬郡ヲ以テ有馬富士ト稱ス

湯山温泉寺ヨリ遙ニ見テ入浴ノ旅客題

歌詩春秋ノ景色猶勝タリ霞霧山ノ腰ヲ

帶テ田子ノ海簾ニアリ

落葉山 同郡有馬湯山浴室ノ西ニアリ所

傳云兼徳元年丁丑天作淫雨洪水山ヲ崩

シ温湯退轉ニ及リ九十五年ノ後和州吉

野僧仁西上人熊野權現ノ靈夢ニ因テ温

湯浴室再建ノ時其涌出ノ地無所指亡然

トシテ山頭ニ立リ老翁忽然ト出現シテ

手ニ一葉ヲ携ヘ東方ニ投タリ其所至温

泉涌出ノ地ナリト告テ終ニ其翁ノ不知

所歸去正ニ權現ノ教也ト其所ヲ察見ニ

然ル自是以來落葉山或ハ投木山童子山

ト云亦山頭ニ城墪ノ古跡アリ因テ以テ
 一名城山正云リ
 功地山 同郡日所杉谷ノ續ニアリ所傳云
 孝徳天皇三年十月于是行幸行宮ヲ造ル
 當山ニ入テ木ヲ伐採終ニ宮造シテ于是
 在ス其切其徳ハナシ浮キ山ナレハトテ功地
 山ト勅号アリ或ハ久牟知山正稱スト云
 攝津國風土記云有馬郡又有鹽之原山此
 邊在鹽湯此邊因以為名久牟知川右周山
 為名山本名功地山昔難波長樂豐碯宮御
 宇天皇世為車駕幸温泉作行宮於温泉之

于時採枝木於久牟知山其枝木秀麗於是
 勅云此山有切之山也因号功地山俗人彌
 謬曰久牟知山又曰始得見鹽湯等云土
 人云不知時世之号名但知嶋大臣時耳云
 久牟知川其部ニ記ス證歌未考
 塞山 同郡日所湯槽谷ノ邊ニアリ俗傳云
 天文年中於于是亦温泉涌出不郡内三田
 邑ノ土人浴室ヲ造テ新ニ病者ヲ留ント
 ス湯山ノ村民挑之牟フ當山ヲ圍テ往來
 ヲ防塞地頭聞其訃ハナシ之温泉モ亦渴ス其
 塞ノ字訓ヲ以テ曾古山ト稱ス塞ハナシ除惡所

愛宕山 同郡月所温泉寺ノ後ニアリ此山
 愛宕神ヲ祭ル社前ニ茅屋一宇アリ温泉
 入浴ノ旅客設席求景色青天雲晴テハ山
 城國愛宕山ヲ遙拜スルノ所也
 躰躰山 同所ニアリ花ノ盛紅白色ヲ交ニ
 山ヲ怪リ因テ花ノ名ヲ山ヲ号ニ取リ
 弓場山 同所ニアリ前領主弓射ノ的場ヲ
 ステ弓場ノ名アリ
 水鬮山 同所ノ西唐檜村ノ地ニアリ元亨
 釋書ニ所載六甲山ノ一名也
 蜂尾山 同郡湯山ノ地ニアリ近歲當所ハ

十二景ニ比ス
 三笠山 同所ニ有テ右ニ月レ
 鐵炮山 同所ニアリ三好宗二的場タルニ
 依テ山ノ名ト成ノ所傳タリ
 止堂山 同所ニ有リ往昔於テ是旅人休息
 ノ一宇アリ因テ四會堂山ト成リ
 登尾山 同所ニアリ紅葉小場穴虫名字尾
 背子瀨齒奈尾蚤瀨弓絃鼻北坂砂子丸山
 栗栖天下等ノ山谷同所ニアリト云在所
 傳不詳或ハ其民家ノ地各ヲ取リ田畑ノ
 字等ニ准フ耳因テ畧之餘モ又同之

六甲山 武庫郡歌名所武庫ノ續ヨリ有馬
 郡唐檀村ニ至チ皆武庫六甲ノ山内也當
 山ハ仲哀天皇先后大仲姫ノ皇子麁坂忍
 熊主天皇崩レ給テ後神功皇后ヲ惡テ共
 シ發シ三韓歸朝ヲ待チ時皇后知之給テ
 武内宿禰ヲ遣シテ軍慮ヲ以テ麁坂及ヒ
 五人ノ族臣ヲ誅シテ山頭ニ埋ム其甲首
 六頭ヲ以テ六甲山ト稱ス忍熊王ノ骸ハ
 宇治川ニ沉ム難波ニ流寄テ葬ル今自鳥
 ノ窟ニアリ山頭ヨリ有馬湯本ニ越道ア
 ツテ六甲越ト号ス樵夫如キノ者乃津甲

越ト云リ免原郡桑村へ出ル所也
 甲山 同郡月山續高嶺ノ半腰ニアリ俗傳
 云武庫六甲ノ半腰ニ離レ其體甲ノ如シ
 四方円面ニシテ面向不背ノ山也或ハ亦
 行基僧正昆陽寺ニ居テ昆陽ノ大池ヲ造
 レノ給フ其塊ヲ以テ築タルニ因テ御池
 山トモ云リ六甲山甲山惣テ歌名所武庫
 ノ山中也武庫ノ名郡ノ引書ニ見タリ
 金津山 免原郡打出村ニ向フ北ノ山也
 所傳云阿保親王卅岡山ニ於テ金瓦一萬
 黄金一千枚ヲ埋セ卅里創錫ニ及フ時是

ヲ極持テ飢ヲ養ヘシト也因テ金津ノ号
 アリキ俗三十一字ヲ以テ傳之云朝日サ
 ス入月輝コノ下ニ金千枚瓦萬枚云々
 御影山 同郡御影村ニアリ所傳云聖徳太
 子母后三寶ヲ敬ヒ常ニ彌陀ヲ念シ生身
 ノ尊容ヲ拜シ奉ニ事ヲ誓難波ノ岸ニ登
 ツテ西方淨土ヲ遙拜シ給フ誓願滿ニ及
 テ當山ノ嶺光明ヲ放チ紫雲近室ニ謁キ
 異香四方ニ盈テ彌陀尊容巖然夕リ因テ
 号テ御影山ト稱ス今所畫之山超彌陀ハ
 則此縁也ト云リ此山歌名所トスルノ説

證歌未考忝ヲ讀ル歌振津ニ比シテ其部
 ニアリ山ハ山城國ニ讀リ
 滝山 同郡熊村ニアリ此所布引ノ瀧ノ
 上ヲ以テ滝山也或ハ滝生山ト云リ又歌
 名所ニ出ル沙山ノ字トス山上ニ城墪ノ
 古蹟アリ其部ニ比ス
 再度山 夫田部郡宇治野村ノ北ニアリ所
 傳云摩尼山大龍寺ハ觀音薩埵ノ靈場景
 雲二年於于是神創延曆年中弘法大師入
 唐ノ時登山大悲尊ニ祈ル諸願正ニ満足
 シテ大同年中歸朝再度登山ニ尊像ヲ拜

ス以是再度山ト稱ス摩尼ノ山号ハ世ニ
 不知之再度世俗略山ト云リ寺記ニ詳也
 摩耶山 同郡五毛村ノ北ニアリ山頭ニ佛
 母摩耶山切利天上寺アリ夫人稱号ニ因
 リ寺記詳ニシテ其部ニアリ
 神撫山 同郡板宿村ノ後ニアリ一名鷹取
 山ト号ス俗傳云昔神切皇后三韓ヨリ歸
 朝ニ給テ是ニ至リ石座有テ巖ノ上ヲ撫
 玉フニ忽高山ト成リ因テ以テ神撫ノ名
 アリ近歳月庵和尚登山ニテ暫クアリト
 云凡秋ノ霧深ク冬ノ雪ハ春ニ不消シテ

難凌終ニ麓ノ禪昌寺ニ入リ寺記其部ニ
 分ツ又北山鷹ノ巢作ヲ以テ鷹ヲ飼者設
 之因テ鷹取山ト一名セリ
 二丈峰 同郡上部村ニアリ所傳不詳
 延喜山 同郡兵庫和田ノ邊ニアリ所傳云
 醍醐天皇于是行幸敕曰此所王城人地勢
 アリト也于時下山生テ形容築地ノ如シ
 今猶横一町長三町ノ平山其體ニアリ
 醍醐帝ノ延喜年中シ以テ山ノ名ト成リ
 壞下山 同郡夢野村ニアリ山ノ沃ニ因リ
 周幡山 同郡須大村ニアリ民家ノ後ヲ以



鉢伏峰

鉢伏峰 同郡同村ノ後トスルモノ欺
 所傳云昔神功皇后三韓征討シテ歸朝ノ
 時先武庫ノ湊ニ至リ也山頭ニ登リ給ヒ
 士率ヲ集ム各群衆シテ甲ヲ襖地ニ伏セ
 暫ク軍切ヲ詭リ因テ以テ時人鉢伏峰
 ト稱ス曾ノ盛ヲ伏タスルニ因リ
 取テ歌ノ名所トス其證不詳凡テ山ノ前
 後ノ山ナシト須ケノ菴ニ結ビ讀ル歌ヲ
 後ノ山ナシト須ケノ菴ニ結ビ讀ル歌ヲ
 へ世俗松風ノ謠ニ寄テ号之或ハ月出ル
 テ一各後ノ山ト稱ス行平卿ノ配所ニ准
 鉢伏峰 同郡同村ノ後トスルモノ欺
 所傳云昔神功皇后三韓征討シテ歸朝ノ
 時先武庫ノ湊ニ至リ也山頭ニ登リ給ヒ
 士率ヲ集ム各群衆シテ甲ヲ襖地ニ伏セ
 暫ク軍切ヲ詭リ因テ以テ時人鉢伏峰
 ト稱ス曾ノ盛ヲ伏タスルニ因リ

長陽祥雲卷第三

廿九

長陽祥雲卷第三

廿九

鐵^{テツ}枋^{カキ}峰^{カミ} 同郡西須^ニ六^リ村^ニアリ俗傳云鐵枋
 仙^{セン}ハ吐^テ氣^キ現^ル我^ガ相^{ソウ}仙^{セン}境^{キョウ}ヲ出^デテ暫^シク此^ノ峰^ニ
 遊^ユ歴^レス因^リテ鐵枋^ノ名^{アリ}或^ハ勇^{ユウ}壯^{ソウ}剛^{カウ}力^{リキ}
 ノ樵^{セウ}夫^フ鐵枋^ヲ以^テテ山^ニ入^リ數^ス駄^ノ薪^ヲ荷^テ
 フ時^キノ人^カ彼^レヲ号^ステ鐵枋^ト稱^ス源平ノ戰
 場^ノ其^ノ部^ニアリ
 新^ニ鞍^マ馬^山 同郡原野村ニアリ所傳云治^シ美^ミ
 四年庚子平相國清盛公兵庫福原ノ新^ニ京^{キョウ}
 ニ有^リテ山城國鞍馬山ノ景色^ヲ當^ル山^ニ移^ル
 テ毘^ヒ沙^シ門^ノ堂^ヲ造^リシ人新^ニ鞍^マ馬^ト稱^ス
 帝^{タイ}釋^{シヤク}山 同郡月所ニアリ山頭ヨリ西海ヲ

見^ミ下^ノ景色無^ク比^シノ高山ナリ所傳不詳
 楪^{ハシ}立^タ峠^ト 嶋上郡大澤打ノ後ニアリ自是丹
 波^ハ國^ノ甲^ノ野^ノ村^ハ出^ルル峠也所傳云源義經公
 一^イノ谷^ノノ戰^ノ場^ニ赴^リノ時^於是^ニ軍^ノ慮^ヲ評^シ定^ム
 シ変^ヘス諸^ノ勢^ヲ旗^ヲ靡^シ以^テ其^ノ名^{アリ}亦^モ赤
 松^ノ入^リ道^ノ圓^ノ心^ニ在^リ云^リ此^ノ峠^ニ旗^ヲ立^テ石^ト号^スルモ
 ノアリ今猶存之其石雜類門ニ分テリ
 明^{メイ}王^ノ嶽^ト 同郡右同所ニアリ金剛夜叉明王
 出現^スニ因^リテ明王嶽ト稱ス根本山神峰仙
 寺^ノ畧^ノ記^ニ詳^{ナリ}
 鳥^{トリ}居^ル峠^ト 嶋下郡下^ノ音^ノ羽^ノ村^ハ後^ニアリ自是

丹波國九柳村ニ出ル時也所傳山神ノ衡

門ニ因リ

牧野峠ニ月郡上村ノ後ニアリ自是丹波國

牧野村ニ出ル峠ナリ他國ノ地名ヲ于是

借ル所也

脚木摺峠能勢郡天王村ノ後ニアリ所傳

云此所道曲リ石高ク木ノ根頭テ足ノ踏

所シ痛ム因テ脚木摺ト云リ自是丹波國

關明神峠同郡切畑村ノ後ニアリ所傳郡

内吉野村ノ神社ニ因リ自是丹波國栢野

村ニ出ル所也神社其部ニアリ

敵子峠同郡杉生村ノ後ニアリ所傳道ノ

曲ルニ因リ或ハ敵子岩ト云名石ニヨレ

川自是上鹽村ニ出ル所也

栢原峠同郡栢原村ノ後ニアリ所傳地名

ニアリ自是丹波國中鹽村ニ出ル所也

天王峠同郡母子村ノ後ニアリ所傳地名

ニ因リ自是丹波國小枕村ニ出ル所也

龍王嶽同郡長谷村ニアリ所傳云昔此所

ヨリ八大竜王出現ノ所也因テ龍王嶽ト

号ス一名八大山下云リ

梨木峠 豊嶋郡伏尾村久安寺ノ後ニアリ
 丹波亀山道路也此峠至ノ間十餘町ノ
 左右梨木多ク花ノ頃雪ノ深山ノ如シ終
 ニ峠ノ名ト成リ
 玄武嶽 同郡日所山内ニアリ所傳寺記ニ
 見ヘタリ院ノ北有テ玄武ト稱ス
 天上嶽 同郡垂尾村箕面寺山内ニアリ同
 祖彼小角所修密行也
 尊鉢窟 同郡文田村ニアリ所傳云世窟ハ
 昔釋迦如來轉法輪所也濁世末代ノ愚者
 疑ナカテシメシメタメ鐵鉢一器ヲ殘給フ

後世掘得之是則釋尊所持ノ鐵鉢ナリ因
 テ尊鉢ノ窟ト稱ス今文田村ノ地名トシ
 テ世ニ多所知也窟廣大ニシテ入ル者不
 知所出常ニ入口ヲ閉テ無縁ノ者ヲ不入
 讓葉嶽 川邊郡小林村ノ後ニアリ所傳云
 此山嶽紅葉多ク有テ元朝ノ饒リ市中ニ
 出シテ高ク濤雨洪水山ヲ崩シ艸木悉ク
 土中ニ埋ニ荒廢ノ窟ト成テ名ノ三殘リ
 今村民千石法ト稱ス法ハ山ノツエタル
 ナリ其崩タル塊ヲ量リ千石法ト云リ
 愛子嶽 同郡中山寺ノ北ニアリ所傳云フ

源満仲公ノ愛子姦女ノ名ノ學寮當山ニ
 アリ其舊地ヲ以テ土公愛兒ノ嶽ト云リ
 讓業窟 同郡伊刀志村ニアリ所傳不詳於
 手是讓業滝アリ其部ニ比ス
 白鳥窟 同郡中山寺院中ニアリ寺記ニ云
 仲哀天皇第二皇子忍熊王ノ遺骸ヲ石棺
 ニ藏テ窟ヲ造リ納メ凡應神天皇是ヲ歎
 給テ神靈ニ崇祭ヘシト勅使ヲ爰ニ下シ
 石棺ヲ開クニ時遺骸化シテ白鳥ト成リ
 後ノ山嶺ニ飛去玉ノ因テ以テ時ノ人白
 鳥窟或ハ宮神座ト稱ス石棺今猶窟ニアリ

リ寺記其部ニ詳也亦廟ノ部ニ論之ヲ
 龍玉洞 同郡赤松村ニアリ八大竜王出現
 ノ洞也土人祈雨必感得アリト所傳セリ
 金剛窟 同郡平井村最明寺滝ノ邊ニアリ
 所傳不詳滝ノ八景其一ニ比セリ
 龍女洞 同所ニアリ所傳赤松ニ同シ
 金懸嶽 同郡廣根村ノ西ニアリ
 行者窟 同郡民田村ニアリ地名千軒ノ号
 アリ所傳不詳役行者修密行ノ所也ト云
 リ窟ノ前ニ駒ノ伏メアリ形容巖ニアリ
 山本窟 同郡山本村ニアリ所傳云昔世所

八天ニ火降時人民其難カ逢ルノ所也惣
 テ是等ノ類毎郡所々多シ皆石ヲ疊テ
 居所トスルノ形也所傳モ亦一致ニシテ
 同ク地山本ノ神社ノ山内ニモ數アリ土
 俗稱之塚ツカト云一説諸侯大吏所司以上
 ノ輦石棺ヲ納藏ノ所也カ云リ其證不詳
 堂峙 有馬郡湯山ヨリ郡内三田ニ至ル所
 也伴青山頭ニ寺院アツテ村民峙堂ト云
 火ヒ抄シ峙 同郡曰所ニアリ地峙ノ下ヲ取テ
 火ヒ抄シコト宜トス因テ峙ノ名ニ取リ
 風越峙 同郡唐檀村ノ境地ニアリ夫田部

郡兵庫ニ出ル峙也所傳山高シテ風雲ヲ
 拂フ因テ風越ノ号アリ
 青原峙 同郡女子村ニアリ所傳永澤寺山
 号ニ因リ自是丹波國小枕村ノ西ニ出ル
 所ナリ寺記其部ニアリ
 日出坂峙 同郡日出坂村ノ後ニアリ所傳
 地名ニ因リ自是丹波國油井村ニ出所也
 三國山峙 同郡月所ノ西ニアリ所傳ニ云
 攝津播磨丹波三州ノ道路ヲ以テ三國ノ
 名アリ自是丹波國小川村へ出ル所也
 駒コ丸ワ峙 同郡三國ノ西ニ當リ大川瀬村ノ

上ニアリ所傳云山ノ姿駿ノ伏タルニ似
 夕リ因テ以テ号々或公赤松入道圓心
 ノ蹄ヲ是ニ休ルニ因リ自是丹波國立株
 村ニ出所ナリ
 赤松峠 同郡月所ノ西ニアリ俗傳圓心古
 戰場ニ因リ自是播磨國毘沙門堂村へ出
 ル所ナリ
 平松峠 同郡日出坂ノ西南ニアリ所傳不
 詳自是播磨國生藩村ニ出ル所也
 二本松峠 同郡平松ノ西ニアリ播磨國攝津
 ノ兩國ヲ分テ松左右ニアリ所傳是ニ因

リ其木夫田部郡ニ有テ一名境ノ松尾云
 自是播磨國荒川村ニ出ル所也
 三本松峠 同郡屏風村ノ後ニアリ所傳云
 此松関白秀吉公播州三木ノ城ニ發向ノ
 時下枝ヲ伐シム其跡贅ト成ヲ以テ一名
 贅松峠ト云リ亦三本相並ルヲ以テ置之
 此木一本ハ太三尋高十丈二本ハ相同少
 シテ太二尋餘高八丈也
 末窟 同郡東末村ニアリ地ヲ掘石ヲ疊テ
 塚宛ニ三十箇所ニアリ其大ナルハ廊下
 ニ階等ヲ造テ行程遙十ニ出ル道路

アリ所傳皆火難シ逢ル所ト云リ因テ餘
 二所有悉ク不載ク
 弓弦羽嶽 免原郡遠目村ノ北ニアリ所傳
 云源義經公西國下向ノ時北浦ニ於テ難
 風ニ遇リ辨慶是ヲ祈リ泥ル事ハ舩辨慶
 ノ謠ニ載テ武庫山下風讓葉嶽ト云ハ此
 所也ト云リ其讓葉ハ淡路國ノ山嶽ニア
 リ武庫ト相向ルヲ以テ對ス又云昔神切
 皇后三韓ヲ征シ玉フ時先弓箭ヲ試玉フ
 所也是故ニ弓弦羽ト稱ス今讓葉トスル
 コト後世ノ轉寔也ト云リ

丹生峠 矢田部郡原野村ニアリ都テ丹生
 山ノ地名ニ因リ自是播州片野村ニ出ル
 所ナリ
 多井畑峠 同郡多井畑村ノ西ニアリ所傳
 地名ニ因リ自是播州下畑村ニ出ル所也
 坂本峠 同郡坂本村ノ北ニアリ所傳地名
 二因リ自是播州下村ニ出ル所也
 小河峠 同郡小河村ノ西ニアリ所傳地名
 二因リ自是播州本津村ニ出ル所也
 衡原峠 同郡衡原村ノ西ニアリ所傳地名
 二因リ自是播州三田村ニ出ル所ナリ

妙法寺峠 同郡妙法寺村ノ西北ニアリ所
傳地名ニ因リ自是播州布施畑村ニ出ル

所ナリ

火峠 同郡須戸村ノ後ニアリ壽永年中ノ

軍源氏ノ諸勢此峠ニ於テ相圖ノ算火ヲ

燃ス因テ火ノ峠ト云ノ所傳タリ

鴨越峠 同郡同所ニアリ鐵拐峠ノ半腹北

ヨリ南ニ開キ出ル所也人輒ク超ル事ヲ

不得道狹テ大鳥ノ羽ヲ慰コト難シ是故

ニ鴨越ノ名アリ自是播州三木室山ニ至

所ナリ夢野長田兩村ノ間ニ本道アリ

東鑑云九節主相具三浦十郎義連已下勇
士自鴨越外山猪麻狐之被攻戰云々猶古

城古戰場ノ部ニ詳ナリ
○瀧ノ部 歌名所俗名所

箕面滝 豊嶋郡平尾村箕面山ニアリ高サ

十六丈滝ノ頂ニ龍穴アリ村民祈雨必洪

水ス 元亨釋書云役小角嘗在攝州箕

面山山有滝小角夢入滝口謁龍樹大士覺

後構伽藍自此号箕面寺為龍樹淨刹云々

同 難 津守 國助

布引滝 免原郡熊内村生田川ノ水上ニア
 リ瀧ニ段ニシテ流ルハ間北三丈餘海邊
 ヨリ見ル者布ヲ曝シ地ニ極タルカ如シ
 因テ布引ノ名アリ

續古 山人乃衣多し白蛇の月子てある布引の滝 京極 撰政

千載 水の色は白雲とあはれ流すはる布引の滝 大木 右大臣

新言 今雑 久之のつはせぬ夏を雲升りて布引の滝 有家 隆季

夫木 詞 雲のけりつるけきかく白蛇の滝をいん 隆季

水無瀬瀧 嶋上郡廣瀬村ニアリ
 夫木 神ノ瀧の白糸夏に流る滝は人此山治るゆゆ 定家

関二 二の瀧とせられたる瀧は秋の月夜ももも涙たり 家隆

千鳥滝 方角未考春雨抄撰津國云々

袖中物 深心とていふまゝのまゝとていふまゝの滝は極満満

○同俗名所

九頭瀧 嶋上郡大澤村根本山神峰山寺境

内ニアリ所縁寺記ニアリ

飛龍滝 同郡日所山内ニアリ所縁右同シ

神峰山寺記ニ出タリ

石積滝 豊嶋郡畑村ニアリ所傳云昔此所

石積何某滝ノ邊ニ遊歴シテ終ニ石積ノ

滝ト成リ又幼童ノ輩於于是石ヲ積テ塔

ニ組滝水ヲ手向地藏祭ト号テ後終ニ石

積ノ滝ト成トモ云リ 日本書紀卷第

北九云天武天皇十年春正月授小錦下位
仍賜姓曰難波連辛巳勅境部連石積封六
十戸云々 同十一年境部宿禰波多朝臣
品治云々石積何某遊歷ノ所傳今ノ畑村
ニアリ若因茲歟ト云リ

連理滝 同郡伏尾村久安寺山内ニアリ所

傳云此滝ノ流ニ二分テ夫滝女滝ト稱ス

末ニ落合ヲ以テ連理ノ滝ノ名アリ

車滝 同所山内ニアリ所傳云當山ノ地主

白山妙理大權現遊化ノ滝ナリ水ノ落ル

響車ノ輓ニ同シ旅人耳ヲ驚ク因テ以テ

車滝ノ名アリ

最明寺滝 川邊郡中山寺ヨリ滿願寺ニ至

中間ニアリ俗傳云時頼入道竊ニ鎌倉ヲ

出テ諸國遍行シテ貪狼野鄙ヲ禁メ國ノ

政道ヲ糾明シ竹々ニ遊歴ス一月此滝ノ

邊ニ来リ菴景ニ遊ヒ給フ所也是ヲ以テ

滝ノ名ト成リ側ニ名石アリ雜類ニ比ス

鼓龍 同郡東多田村ノ辰巳ニアリ所傳云

滝ノ落ル音鼓ノ鳴ニ似タリ因テ号之多

田院州創ノ時滝口ヲ切テ巖ヲ平均筏ヲ

撰場洋卷卷第

七九

引テ院前ニ至ル是ヨリ滝ノ名ハカリト
 成リ風景今モ常ナラス初夏ノ頃鮎群ヲ
 是ニ逆上ル近御近里ノ漁者手網ヲ以テ
 汲之其量リ數石ニ及リ土俗此滝ヲ以テ
 歌ノ名所トス音ニ聞鼓カ滝ヲ来テ見シ
 ハ唯山河ノ鳴ニフ有ケル所傳也歌ニ因
 リ唯山河ノ鳴ル而已歟名所トスルノ證
 未考肥後國ニ同名アリ
 龍滝 同郡日所ノ水上移瀨ニ近シ所傳云
 昔於于是鯉魚天ニ登リ龍ト化ス因テ竜
 ノ瀧ト稱ス水底龍宮城ニ至ル以テ又云

雲雀滝 同郡新畑村ノ北ニアリ所傳不詳
 歌ノ名所千鳥滝トスルモノ歟
 小松原滝 同郡伊力志村ニアリ所傳不詳
 當所ノ村民姓名ニ因ル歟
 讓葉滝 同郡日所ニアリ所傳不詳此山嶽
 杠多キニ因リ哉
 溝滝 有馬郡生野村ニアリ始鹽生野ト云
 所也此滝郡内生瀬川ノ水上ニアリ大巖
 兩方ヨリ指出高サ十間ハカリ掘溝ノ如
 夕幅僅ナリ因テ溝滝ト稱ス鮎鯉等多ク
 漁者是ニ網ニテ市店ニ出ス

鼓滝

同郡湯山温泉寺ノ南ニアリ所傳川邊郡多田ノ瀧ニ同シ羅山文集温泉記ニ

所載ナリ

蜘蛛滝

同郡右鼓瀧ノ奥ニアリ所傳云村

民州滝

同上ニ於テ樵薪柴力盡テ瀧ノ滴

ニ足ヲ冷シ頻ニ眠ル

蜘蛛水中ヨリ這上テ絲ヲ引テ樵夫ノ足ヲ纏マタ水ニ入り

醒驚テ其絲ヲ取大樹ノ切蒸ニ懸テ退キ

是ヲ見シハ水逆巻動キ樹ノ蒸揺出テ終

ニ瀧ニ入り樵夫逃歸テ語り傳フ因テ蜘蛛

滝ノ名アリ今モ猶土俗恐レク

蜘蛛滝ノ名アリ今モ猶土俗恐レク

白石滝

同郡右蜘蛛滝ノ奥ニアリ世洲底

皆白石ヲ敷リ因テ瀧ノ名トス其白石ハ

降敷霰ノ如シテ如モ光有テ水晶輪ノ如

能知之者設之金山ニ置リ温泉入浴ノ旅

客聞傳テ終ニ採盡リ

○岡ノ部歌名所俗名所

住吉岡

住吉郡住吉ニアリ

拾遺 住吉の松のつれづれと雨のゆきもあはれやまき 珠見

名越岡

同郡月所ニ属ス或ハ名胡之岡ト

讀リ夫木集撰津國ト云ク

家集 住吉の松のつれづれと雨のゆきもあはれやまき 好志

夫木 白濁地ありし星の玉造り敷ありぬる秋を鳴き月々
並岡 所指右ニ同シ夫木奈良之攝津亦ハ

大和云々 大和名寄並岡攝津ニアリ藻鹽攝
津國並濱攝岡濱ノ部ニ論之

五八坊のあはれ星の子親とてまやしいま昔まや
拾遺 我宿のあはれ星の子親とてまやしいま昔まや

新勅 神ありあはれ星の子親とてまやしいま昔まや
夫木 春四 立あはれ星の子親とてまやしいま昔まや

猪飼野岡 東生郡猪飼野村ニ属ス或ハ又
大和ニ同一名アリ

万ニ 防雪のあはれ星の子親とてまやしいま昔まや
徳積 皇子

夫木 雑三 かつらりく猪飼野星の子親とてまやしいま昔まや
後九条 大臣

水岡 方角證歌未考能因法師歌枕攝津國
ニ比セリ因テ記之

有明岡 川邊郡猪飼野村ニアリ昔
孝徳天皇御宇法道仙人開基ノ法園寺本

尊薬師ノ靈像光明ヲ放テ此岡ヲ照セリ
時ノ人有明岡ト稱ス寺記其部ニアリ

菅岡 有馬郡平田村ニアリ所傳和歌ニ讀
凡有馬菅ノ名所トス菅ヲ讀凡證歌名物

門ニ記セリ

相坂 東生郡四天王寺衛門筋一心寺ノ下
 ニアリ此坂ノ下ニ清水アリ所傳關ノ名
 比テ逢坂ト云リ或ハ聖徳太子ト守屋太
 連互ニ信スル所ノ法ヲ比合スルノ既シ
 以テ合法四會ト稱スルノ地ヲ爰近ニ因
 テ合坂ノ地名トスルノ一説アリ又此坂
 登コト僅ニシテ小坂トスルノ所傳アリ
 日本書紀ニ所載之避人能鳥瑤人トスル
 毛ノ歟大坂ノ地名ニ論之
 源聖寺坂 大坂西寺町ニアリ世ニ下寺町
 ト稱ス所傳寺院ニ因リ

蛇坂 同所稱名西照兩寺ノ中間ニアリ所
 傳不詳道ノ曲ル因リ
 安國寺坂 同所ニアリ世俗安藝國安國寺
 第宅ノ舊地ナリト云リ所傳不詳
 釣鐘谷 西成郡西高津村民家ノ裏ニアリ
 中古村民此地ヲ穿テ鐘ノ龍頭ニ當レリ
 是ヲ掘ニ随テ土中ニ沉ニ經日未過龍頭
 人皆群シ成レ轉轆ヲ以テ推令引之不得
 揚終ニ止テ地名ニ殘ルノ所傳タリ其所
 有年曆不詳
 雲見坂 鳴下郡太田村ノ東ニアリ所傳云

兵馬詳談卷第三

兵馬詳談

池山ノ城主於于是所考運氣也因テ雲見
 坂ノ名アリ古城其部ニ比ス
 火打坂 豊嶋郡吉田村ヨリ川邊郡東多田
 村ニ至ル横山坡ヲ云リ此坂ノ石火ヲ打
 コト宜シ村民設之同テ坂ノ名トス
 安谷 同郡伏尾村久安寺山内ニアリ所傳
 云久安寺開山菩薩僧行基地主白山妙理
 大權現當山ニ導玉フ時山水濤々トシテ
 涉ヘキ便ナシ神ノ教ニ隨順シテ即得淺
 所ノ威神力ヲ得テ輒少岸ノ向ニ至ル因
 テステ易谷ト稱ス日本書紀神功皇后ノ

記ニ所載取得熊鷲我心則安故号其処曰
 安云々于是維氷附合上古モカ、ル様ア
 リ因テ于爰引書セリ寺記其部ニアリ
 細卿谷 同郡伏尾東山吉田古江木部中河
 原等ノ六箇邑ノ間都テ東西ニ山有テ細
 卿谷ト稱ス所傳不詳
 枚谷 同郡池田村ニアリ所傳不詳
 滝谷 能勢郡余野村ニアリ此谷ヨリ千手
 觀音立像ニ出現所ナリ因テ一名千
 手谷トモ云リ寺記其部ニアリ
 龜倉谷 川邊郡伊力志村ニアリ所傳不詳

最明寺時頼公遊歴ノ地録倉谷ト稱スル
 ヲ亀倉トスル歟ト云リ
 高平谷同郡槻瀬村ニアリ此谷涉リ廣ク
 シテ田圃アリ菘菜ヲ名物トス其部ニ比
 麻床坂有馬郡生瀬村ヨリ名鹽村ニ行
 ニアリ麻ヲ追獵師奥山ヨリ爰ニ追下
 此坂下生瀬川ノ水上ニシテ流早ク瀉
 ク洲也麻能知之横道ニ成ス所ヲ獵師圖
 ニシテ射之因テ麻床ト稱ス
 船坂同郡船坂村ノ地名也坂ニ因和州吉
 野僧仁西上人温泉再建ノ時於于是湯槽

シ造シム因テ船坂ト稱ス後世亦民家ト
 成ルノ所傳村ノ部ニアリ
 座頭谷同郡生瀬船坂ノ間ニアリ所傳云
 盲人病アツテ温泉山ニ赴ク此溪ニ迷入
 テ不知所出終ニ勞死ス樵夫見之則其地
 ニ埋テ人ノ世語トス
 贅坂同郡温泉山ノ道路ニアリ所傳云昔
 一人ノ病者アリ贅眼ニ懸テ愁之或時浴
 温泉藥師佛ニ祈ル云凡其切ナシニ七
 日ヲ經テ歸路爰ニ至ル贅地ニ落テ喻ル
 コト熟菓ノ蒂ヲ離ルカ如シ時人人贅坂

ト綱ス亦道細クシテ長クハテ昆布坂ト
 スルノ一説アリ
 杉谷 同郡湯泉山ニ入り所傳云孝徳天皇
 温泉ニ行幸於于是行宮ヲ造ル多ク杉ノ
 良材ヲ伐採ノ所也因テ松ヶ谷ノ名アリ
 山ヲ切地ト綱ス猶山ノ記ニ比ス
 湯槽谷 同郡同所ニアリ所傳云行基僧正
 温泉ヲ開ノ時湯槽ヲ于是造ル所用良材
 モ亦此溪ニ入り因テ湯槽谷ト綱ス
 卯木谷 同郡同所ニアリ此谷槍多ク花ノ
 頃ハ紅白交條見ル人歸期ヲ失フ温泉ノ

市店造選工人求枝削釘用之多年伐盡テ
 地名ト成リ
 地獄谷 同郡同所ニアリ所傳云昔此谷ニ
 於テ罪人呵責喚嘆ノ聲山響地動コト時
 アリ因テ地獄ノ名アリ又此地リ盆池ノ
 水畜獸虫介等ノ生類吞之憚死スルコト
 不去池邊毒水涌出ノ地多ク断生是ヲ以
 テ地獄ノ号アリトモ云リ羅山文集温湯
 記ニ所載於于是賦詩韻之所ナリ
 琴彈坂 同郡尼寺村ニアリ此所花山皇后
 菩提尼寺アリ法皇于是行幸皇后及宮女

琴彈坂



於^ラ干^ニ爰^ニ彈^キ琴^ツ月^ヲ詠^ム人^ノ玉^ノ所^也因^テ琴^彈
 坂^ノ名^{アリ}寺^記其^部ニ詳^{ナリ}
 鎌倉^カ倉^{クラ}谷^コ同^郡生^野村^ニアリ所^傳云^ク最^明寺^ノ
 時^ノ賴^公諸^國ノ貪^狼糺^明セント竊^ニ鎌^倉
 倉^ヲ出^テ所^々ニ遊^歴シ玉^ノ所^地モ其^一
 也因^テ鎌^倉ノ名^{アリ}大^巖側^ニ有^テ百^丈
 石^ト号^ス其^記雜^類ニ然^リ
 蛇^谷矢^田部^郡守^治野^村大^龍寺^山内^ニア
 リ所^傳云^ク弘^法大^師入^唐ノ時^既ニ舩^ヲ浮^ク
 ム障^ノ大^惡風^ヲ吹^波覆^舩之^時大^龍出^現シ
 テ守^護之^障化^{不得}進^終ニ入^唐歸^朝ノ期^ニ

ニ及テ海上又然リ此浦ニ於テ大龍飛テ
當山ニ去リ是則觀世大悲ノ冥助也ト登
山シ給フ大龍又此谷ニ現ス因テ蛇谷ノ
名アリ寺記其部ニアリ

小野坂 同郡小野村ニアリ所傳生田小野

ノ名所ニ因リ

一谷 同郡西濱ノ村ニアリ東鑑云壽永三

年二月四月癸亥平家日來相從西海山陰

兩道軍士數万騎擣城郭於攝津與播磨之

境一谷群集云々此谷長四町餘横二十間

高十二間法十七間谷口ヨリ浪打際一テ

六十間餘ニノ谷ニ至ルノ間二町四十間
餘ヲ隔テ險阻ノ地也ニ逆落レト稱ス猶
古戰場ノ部ニ詳ナリ

二谷 同郡同所ニ續リ此谷長三町餘横八

間高九間谷口ヨリ浪打際一テ四十間餘

三谷ニ至ノ間二町餘ヲ隔タリ

三谷 同郡同所ニ續ク此谷長二町餘横九

間高九間谷口ヨリ浪打際一テ五十間餘

都テ四町餘ノ間ニナリ東ヲ一ト定テ二

三ト西ニ相並リ凡山谷ノ名ヲ稱スル事

多トイヘ氏地名ニ因リ或ハ山田ノ字シ

取所傳不詳村民山人樵夫等ノ異名スル所也拾遺則ハ不遺枚舉因テ略之

○川ノ部 歌名所俗名所附川原

百濟川 東生郡ニ属ス今謂小橋ノ東平野

川ヲ指リ百濟ノ地名始ニ論之八雲御抄

勅撰名所集夫木集皆攝津國ニ比ス

夫木世の申子河のあはれを百海のあはれを後頼

玉造川 同郡百濟川ノ下今謂玉造ニ属ス

夫木集播大近江ニ同名アリト云々

夫木 雜五 玉造川 讀不知

三津川 東生西成ノ兩郡ニ属ス都テ難波

ノ惣名ニ准ス

堀江川 方角不詳大略東生西成ノ二郡ニ

属ス世俗今ノ東横堀ヨリ南ニ續キ木津

村ノ馳川ニ至リ或ハ下寺町極樂橋ト稱

スルノ井路亦ハ川邊郡尼崎庄下橋ノ溝

川等ヲ指テ堀江ニ論スルノ説アリト云

氏其證ナシ日本書紀ニ所載宮ノ北ノ郊

原ヲ掘テ南水ヲ引テ西海ニ流シ入テ田

宅ヲ全シ其水ヲ号テ堀江ト云ト出タリ

仁德帝ノ宮地今ノ東西ノ高津ヨリ小橋
村ニ至ルノ間トスルノ證古宮ノ部ニ論
之以是見之宮ノ北ノ郊ハ玉造ノ岸ニシ
テ別ニ無所指郊ノ原ハ村ノ外ト云ノ義
也然ラハ今謂平野川古ノ百濟ノ川下至
造川ニ南水ヲ引テ淀川筋ノ大川ニ落シ
西海ニ流入ルノ所掘江ノ證トスル事雖
不中不遠土佐日記等ニモ川尻ノ江口ニ
入テ船漕登ル掘江淺夕テ坐行ト書リ近
歲大坂ノ津長掘道傾掘地ヲ南北ニ挿テ
下難波領ノ田圃アリ元祿十一戊寅年依

公命市店ト成ル其中間ヲ東西ニ掘テ東
流ヲ引テ西海ニ落シ入テ掘江川ト稱ス
日本書紀卷第十一云仁德天皇十一年夏
四月戊寅朔甲午詔群臣曰今朕視是國者
却澤曠遠而田圃少乏且河水橫逆以流未
不駛聊逢霖雨海潮逆上而巷里乘船道路
亦溼故羣臣共視之決橫源而通海塞逆流
以全田宅冬十月掘宮北之郊原引南水以
入西海因以号其水曰掘江云々

凡此 船長河小極に此川の如きものなりは舊く船場かき 家持
雜五 船場河小極に此川の如きものなりは舊く船場かき 家持

船場河小極に此川の如きものなりは舊く船場かき 家持

日三 狩野の河原川原子狩子馬の河原の河原の家隆

狛川 嶋上郡山崎邊ニ属ス多ハ山城國ニ

アリ攝津境地ヨリ以上都テ狛川ノ名アリ

ルヲ以テ是ニ記セリ夫木歌名所ニ属ス

夫木 雜五 わさかきよ人の心はさかき川新の心はさかき 為家

芥川 同郡芥川村ニアリ延喜式神名帳ニ

所載阿久刀神社アル所ナリ後撰集以後

歌名所ト成リ

拾遺 人知く芥川をばはの心はさかき 為家

十五 食はの國はさかき人知く芥川をばはの心はさかき 為家

大鑑 食はの國はさかき人知く芥川をばはの心はさかき 為家

同 同の心はさかき人知く芥川をばはの心はさかき 伊勢

玉川 同郡西面村ニアリ

千載 玉川と名をよめるは 伊勢の心はさかき 為家

風四 時をくぬ玉川はさかき 伊勢の心はさかき 為家

高瀬川 同郡鳥飼村ノ東ニ高瀬ノ号アリ

夫木集山城或ハ河内攝津安房上野ニ同

名アリト云リ今山城國伏見ヨリ洛中ニ

續ヲ高瀬川ト云

三嶋川 同郡三嶋江村ニアリ夫木集攝津

國ニ比ス伊豆國ニ同名アリ

十載水門川也... 道因
 日... 範義
 新勅... 内大臣
 五秋... 順德
 風... 御製
 夫木... 為相
 笠鷺川 方角未考名寄未考國云々後世名
 所集ニ所載攝津國トスルノ一説アリ今
 住吉郡住吉邑ニ於テ土俗鵲橋ト稱シテ
 溝川ノ渡アリ其證雖不詳所傳拾々
 名寄... 前代
 天野川 方角證歌未考能因法師歌枕攝津

國ノ名所トス今河内國天野川ノ涉ト成
 歟又豊嶋郡上津嶋掠橋村天竺川ニ轉セ
 ル歟今攝津國磯嶋村ノ一邑嶋上郡ニ有
 テ河内國ニ交リ准之則ハ攝津天野川今
 河内ノ地名ト成リ哉其證雖不詳後世轉
 變ノ例ニ因ルノ一説也
 ○同俗名所橋ノ部ニ中ノ川並ニ掘々ハ
 江川 東生郡大坂市店ノ東ニアリ南ハ
 斤原東町北ハ野田町ト云所傳漁者是ニ
 網ス鯰魚多キニ因リ
 猫間川 同郡平野川ノ落合ニアリ所傳不

平野川 同郡玉造ノ東ニアリ上古玉造川
 詳歌名所玉造川ニ流シ同セリ
 ノ歌名所也今郡丹平野庄ニ續シ以テ後
 世改号セリ
 梅川 西成郡西高津村ニアリ難波高津ノ
 号ニ因テ世俗梅川ト稱ス
 極樂川 同郡下寺町ノ北ニアリ寺町口ヲ
 以テ世俗極樂川ト稱ス今總成井路也
 龜川 同郡木津村ニアリ俗傳云昔聖徳大
 子荒陵ノ東ニ於テ四天王寺ヲ壞移シ給
 フ時所用之良材土佐國ノ南海ヨリ勝間

ノ浦ニ引テ荒陵ノ西ノ岸ニ至ラシム或
 日潮水渴シテ筏州河ニ不入于時多人龜
 群リ集シテ水中ニ入綱ヲ引テ岸ニ着リ
 因テ龜川ト稱スト云リ
 上人川 同郡月所ニアリ所傳不詳耕作ノ
 村民船ヲ通ラ以テ俗小便水尾ト稱ス
 傳法川 西成郡傳法村ニアリ東西ニ流レ
 東ハ長柄川ヨリ淀川ニ續キ西ハ海ニ入
 是ヨリ嶋傳ヒテ尾崎ノ津ニ至ル聖徳
 太子傳法所傳アリト云トモ不詳
 逆川 同所ニアリ流水嶋ヲ巡リ東ニ流レ

亦西ニ曲落ルヲステ世俗逆流川ト稱ス
 十三川 同郡成小路村ノ渡ヲ云リ東ハ長
 柄川 西ハ傳法川ニ落世ニ十三ト稱ス
 野里川 同郡野里村ノ渡ヲ云リ十三ノ川
 下也同シ川ノ流其所ノ名ヲ取テ川ノ名
 トスルノ類多シ此川筋撫テ中津川也
 宿川原 嶋下郡宿久庄村ニアリ世所ハ昔
 暮露集リテ九品念佛ヲ修スルノ地ト云
 リ川邊武庫夫由部等ノ郡中ニ所論之
 リ其證不詳和名類聚延喜式ニ嶋下郡宿
 久ノ名アリ

亦西ニ曲落ルヲステ世俗逆流川ト稱ス
 十三川 同郡成小路村ノ渡ヲ云リ東ハ長
 柄川 西ハ傳法川ニ落世ニ十三ト稱ス
 野里川 同郡野里村ノ渡ヲ云リ十三ノ川
 下也同シ川ノ流其所ノ名ヲ取テ川ノ名
 トスルノ類多シ此川筋撫テ中津川也
 宿川原 嶋下郡宿久庄村ニアリ世所ハ昔
 暮露集リテ九品念佛ヲ修スルノ地ト云
 リ川邊武庫夫由部等ノ郡中ニ所論之
 リ其證不詳和名類聚延喜式ニ嶋下郡宿
 久ノ名アリ

待難川 豊嶋郡瀬川村ノ西北ニアリ水
 箕面ノ滝ニ出夕リ所傳待難山ニ同シ
 池田川 同郡池田村ニアリ歌名所猪名川
 二同シ漁者手網ヲ以テ鮎ヲ取り池田大
 坂ノ市店ニ出シ商之
 逆川 同郡伏尾村久安寺院前ニアリ山水

濤々トシテ巖ニ塞ル、水索ニ流テ亦西

小蟹川 同郡ニアリ所傳小蟹多キ一周リ

井口堂川 同郡井口堂村ニアリ所傳地名

二因几耳

天生川 同郡上津嶋掠橋村ニアリ此川常

ニ水ナクシテ平沙涉リ狭ク行程數百歩

ニ續ク因テ天河ニ喻之兩降水流シテハ

神崎ノ大川ニ落ル所也

神崎川 川邊郡神崎村ニアリ東ハ淀川ニ

續キ西ハ佃村ヨリ尼崎ニ落テ西海ニ入

其川岸ノ地名ヲ取テ川ノ名トス此川上

蓬川 同郡東新田村ニアリ尼崎ノ西水上

濱田七松等ニ有テ末西海ニアリ蓬ノ名

ヲ取コト所傳不詳蓬州ヲ浸ニ因リ

加茂川 同郡加茂村ニアリ所傳地名ニ因

リ歌名所措名ノ溝川トスルモノ歌水上

最明寺滝ヨリ出タリ

勅使川 同郡中山寺ノ麓ニアリ寺記云昔

應神天皇兄忍熊皇子神功皇后ヲ惡ンテ

兵ヲ殺シ三韓歸朝ノ期ヲ待玉ヒ既ニ討

救使川



向^マフ皇^ミ后^ノ知^リ之^ヲ玉^ヒテ武^ム内^ノ宿^ノ禰^ノ夕^ツ以^ツテ令^ム
 計^ケ之^ヲ恐^シ熊^ノ遺^ノ骸^ヲヲ宇^ツ治^ノ川^ニ沉^ニム經^テ月^ヲ體^メ不^レ
 壞^レ難^シ波^ニ漂^レ流^シテ不^レ去^ラ因^ツテ八^ノ祖^ノ連^ニ仰^セ
 元^ノ當^ル山^ニ祭^ラシム是^レ則^チ今^ノ白^ク鳥^ノ窟^也
 應^ル神^ノ帝^ノ治^メ世^ヲ勅^シ使^シテ于是^ニ下^シ給^フ勅^使
 此^レ川^水ニ解^ク除^スス時^キノ人^ノ救^メ使^シ川^ト稱^ス
 足^レ洗^ハ川^同所^ニア^リ所^ノ傳^ヘ聖^ノ德^ノ太^ノ子^ノ中^ノ山^ノ寺^ニ
 州^ノ創^ルノ時^キ此^レ川^水ニ驟^クノ蹄^ヲ濯^キ玉^ヲフヨ
 天^ノ玉^ノ寺^川同^郡月^所ニ^アリ聖^ノ德^ノ太^ノ子^ノ四^天
 玉^ノ寺^{開^基ノ}後^所殘^レ之^ヲ良^ノ材^中山^ノ禁^ニ運^ス

長門の深天

四十八

送シテ此川ヲ引登セリ因テ天王寺川ノ
 名アリト所傳ス
 多田川 同郡多田ノ院前ニアリ此川下鼓
 滝ニ出水上移瀬ト稱ス此間殺生禁斷也
 金瀬川 同郡東多田村ニアリ多用川ノ流
 ナリ多田銀山ヨリ出テ沙干是留ルヲ以
 テ金瀬ト稱スルノ所傳タリ
 波豆川 同郡波豆川村ニアリ此水上振丹
 ノ境界ヨリ落テ流ニ分レ東ニ落テ池
 田川ニアリ西ニ流ルヲ波豆川ト稱ス
 生瀬川 有馬郡生瀬村ニアリ水上丹波橋

六等ノ境地ヨリ出テ三田車瀬川ニ落テ
 武庫ノ川ニ入武庫郡鳴尾崎ニ落テ西海
 ニ流入ノ大河也霖雨續テ洪水スレハ涉
 ナシ此所丹波橋六等ノ往還有馬温泉山
 ニ行所ニシテ常ニ船渡アリ水甚早レテ
 大綱ヲ以テ兩岸ニ張是ヲ手操渡ス所也
 小多々川 同郡生瀬村ヨリ船坂村ノ間ニ
 アリ水上武庫ノ山中ヨリ出テ生瀬川ニ
 落テ川温泉山ノ往還也湍而洪水レテハ
 通路留リ常ニ渡ル時流水岩ニ塞レ道ニ
 曲テ足ヲ冷大率四十八箇所ヲ以テ世俗

四十八川ト稱ス小多々ノ所傳不詳
 車瀬川 同郡三田ノ市中ニアリ水上生瀬
 川ニ同シ水甚早ク落テ瀉卷コト車輪ノ
 如シ因テ車瀬ノ名アリ
 道場川 同郡道場川原村ニアリ所傳地
 名ニ因リ常ニ平沙ニシテ雨洪水ヲ成ハ
 涉ナキ大河也
 逆瀬川 武庫郡武庫山ノ半腹ニアリ山谷
 ヲ曲リ東流水ヲ以テ逆瀬ノ名アリ水上
 生瀬川ヨリ落テ武庫川枝川モ同シ流也
 枝川 同郡武庫川ノ分レタルヲ以テ枝川

ノ名アリ川下鳴尾ノ海ニ落ル所也
 風川 同郡風村アリ西宮ノ間也所傳梵論
 ノ九品念佛ヲ修スル所ト云リ前ニ論之
 蘆屋川 免原郡芦屋村ニアリ所傳地名ニ
 因リ武庫ノ山中ヨリ出テ海ニ入ル所也
 住吉川 同郡住吉村ニアリ所傳芦屋同シ
 御影川 同郡御影村ノ西ニアリ所傳御影
 山ニ同シ彌陀ノ尊容流水ニ移ルヲ以テ
 御影ノ名アリ亦山ノ麓ノ地名ニ因ル耳
 水皆山中ヨリ流落テ海ニ入ル所ナリ
 都賀川 同郡岩屋村都賀ノ庄ニアリ所傳

地名ニ因リ水ノ上下御影ニ同ジ
 原田川 同郡原田村ニアリ所傳地名因リ
 石屋川 同郡太石村ニアリ水ノ上下都賀
 二同シ此川平沙ニシテ石佛牌石等ヲ造
 ル所也世ニ御影右ト稱ス因テ石屋川ノ
 名アリ
 宇治川 夫田部郡宇治野村ニアリ所傳地
 夕二同シ山ノ滴リ落テ海ニ入ノ所也
 通盛川 同郡須六村ニアリ水ノ上下宇治
 野ニ同シ此所壽永年中ノ戰場タルヲ以
 テ越前三位通盛ノ名アリ土俗上略シテ

血盛川ト稱ス
 荊藻川 同郡兵庫ノ西ニアリ水ノ上下通
 盛川ニ同シ此所壽永年中ノ戰場重衡卿
 ヲ生虜ノ所也荊藻ノ名アリ事所傳不詳
 此外山河榎川等ノ落谷所々ニ別名アリ
 事不遺毛舉因テ畧之

撰陽群談卷第三終

